

# VAR モデルを用いた日米の量的緩和政策の効果分析

徳山 隼也 山本 信一

## 概要

本論では、VAR モデルを用いて量的金融緩和政策の実証分析を行った。そのために、米国で 2008 年からバーナンキが行った量的緩和政策と日本で 2013 年から行われているアベノミクス下の量的緩和政策について、VAR モデルを構築し、インパルス応答関数を見ることで、マネタリーベースの増加が鉱工業生産と物価にどのような経路でいかなる影響を及ぼすのかに着目し分析を行った。

分析の結果、米国においてはマネーの増加は為替レートを波及経路として生産と物価を、特に生産を上昇させる。一方で日本におけるマネーの増加も為替レートを通じて物価を上昇させるが、生産には有意ではなくその応答も米国と比較すると小さなものだった。

キーワード：量的緩和政策 マネタリーベース 鉱工業生産 物価 VAR モデル

## 目次

- 1 はじめに
- 2 先行研究のレビュー
- 3 アメリカの量的緩和政策についての分析
  - 3.1 3 変数 VAR モデルの構築
  - 3.2 実証結果
  - 3.3 4 変数 VAR モデルの構築
  - 3.4 実証結果
- 4 日本の量的緩和政策についての分析
  - 4.1 3 変数 VAR モデルの構築
  - 4.2 実証結果
  - 4.3 4 変数 VAR モデルの構築
  - 4.4 実証結果
- 5 まとめと結論
- 6 参考文献